

2021年度「自由を生き抜く実践知大賞」ノミネート一覧 実践事例概要

*No.は実践事例名称の五十音順

NO	実践事例名称	実践主体	実践事例概要
1	あなたの部屋が法政大学(Your Room is Hosei University)	通信教育部 学生会サークル 市ヶ谷パッションズ(ICHIGAYA PASSIONS)	通信教育部学生会サークル市ヶ谷パッションズは、「学生による学生のための活動」として大学と共創しながら自由な発想に基づき活動しているのが特徴です。また、ZoomとSlackが主な活動ツールであることから、場所にとらわれず、全国どこからでも参加が可能です。 【具体的な活動内容】 ①オンライン対面ZoomLive Zoomを使い分けながら様々なニーズに対応しています。 ■Zoom Live…オフィサー運営による全体ミーティング ■My Zoom…個人企画によるミーティング ●Open Zoom…誰でも自由に参加できるミーティング ●Friend Zoom…少数コミュニティによるミーティング ②Slackによるコミュニケーション 「Slackに通学しよう！」を合言葉にバーチャル通学。 オンラインミーティング以外にも交流の場を提供しています。様々なスレッドを用意して各トピックについて参加者が自由に情報交換可能です。「ここを訪れればいつでも学生同士集うことができる」というバーチャル通学をコンセプトにオンライン上のキャンパスライフを創出しています。 オンラインネットワークだからこそ可能な人とのめぐり逢い、皆で集うつながりの空間を得ることができました。
2	Webアプリ「MINERVA」を用いたコロナ禍の安全な行事運営	小金井企画実行委員会	新型コロナウイルス禍での行事運営のため、独自のWebシステム「MINERVA」を構築しました。「MINERVA」は、本年度の新入生歓迎会と小金井祭の開催に際し、理工系学部を有する小金井キャンパスならではの技術力、発想力を駆使して開発した、QRコードを活用した入室管理システムです。スマートフォンのブラウザで動作するので、手軽に導入が行えます。オープンソースプロジェクトとしてGitHubにも公開されています。 システムを用いることにより、スムーズで正確な参加者の管理をすることができるようになり、そのシステムをオープンソース化することによって、全国と同じ境遇の大学生がこれを使えるようにしました。
3	ウォーターミッション for カンボジア	法政大学国際高等学校	カンボジアの人びとの水問題解決を行っているNPOや企業の支援を受けながら、本校生徒がチームを組んで現地の人びとの課題をオンラインで調査分析し、現地の学校の水問題解決へ向けた支援策を企画実行した実践事例です。 具体的には、まず5回のゼミでグローバルに活躍するNPOとのディスカッション、さらにはwithコロナでも可能なフィールドワークとして、現地カンボジアの人びとへのオンラインインタビュー実施等得た知識を基礎に、チームごとに支援計画をNPOにプレゼンしました。 そこで選ばれたプランをもとに、持続可能な援助に必要な資金を募るクラウドファンディングに有志メンバーで挑戦し、当初の目標を達成しました。今後は現地での社会実装に向けて活動する予定です。 高校生らしい調査を入口にしながら、外部団体・企業のグローバルリーダーの足場かけによって、持続可能な地球社会の構築につながる本校らしい深い学びへと発展させています。
4	衛星データを用いたwithコロナの新たな観光提案アプリケーション「星みくじ」	理工学研究科 小林寧々 株式会社amulapo	衛星から撮った夜の画像を使って星が見やすい場所を割り出してユーザーに届けるウェブサービス「星みくじ」の企画と製作を行いました。密を避けなければならないコロナ禍において、アウトドアや星空に関する需要が増えることが予想される今だからこそ、衛星データを使って人々に星を見る楽しさを届けられないか、衛星データの新たな使い方を探る提案です。 株式会社amulapoでは企画(アイデアコンテスト)からアプリケーションの製作までプロジェクトマネージャー兼エンジニアとして活動しています。
5	オープンキャンパスの枠を超えた支援活動	多摩オープンキャンパスリーダーズ	多摩オープンキャンパスの学生スタッフである多摩オープンキャンパスリーダーズ(以下、リーダーズ)は毎年8月開催のオープンキャンパスの実施・運営を目的として活動している。しかし昨年からコロナ禍で、受験生だけでなく学内者も自由に大学に来られない状況が続いた。この状況を鑑み、リーダーズでは過去の経験を活かして8月のオープンキャンパス以外に様々な支援活動を学生が主体となって行った。また、多摩事務課職員は学生からの要望に応じて関係各所との折衝・調整を行った。 これまでの高校生への支援の経験を活かすことで、受験生のみならず在学学生や職員に対する支援を実現できた。どの企画においても共通して多くの方に参加していただけただけでなく、高評価を得ることができたのは、この状況下において必要な支援を必要な人に届けることができたことを示している。
6	オンラインSDGsプラットフォームの開発	デザイン工学部 川久保研究室	現在、世の中が抱えている様々な課題を解決し、持続可能な社会を形成していくためにSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みの実践が求められている。SDGsの達成のためには産官学民のあらゆる行動主体による取り組みの実践が求められるが、具体的な実践方法が分からないという声も多い。そこで、本研究室では、先駆的にSDGsの達成に取り組む行動主体(インベーターやアーリーアダプター)の実践知を共有する初のプラットフォームを開発することを通じて持続可能な社会の構築へ貢献している。 空間や属性等の違いに依らずに(地理的に距離が離れていたり、所属する組織や関係分野の違いに依らずに)、また、昨今の状況(パンデミックによる物理的な接触、交流制限がかかる状況)も踏まえて、オンライン上で実践知を共有できるようなシステムを構築している。
7	コロナ禍での VSP オンラインボランティア	VSP(ボランティア支援プロジェクト)	法政大学VSPでは、新型コロナウイルス感染症の影響によって従来の対面でのボランティア活動の大半が延期・中止になったことをきっかけに、活動のオンライン化を推進した。 VSPで行われていたボランティア活動は、ボランティアの対象者という側面から考えた際に、外国人・高齢者・こども食堂・他大学の学生など様々で、それぞれに事情を抱えているため必ずしも今までの活動をそのままオンラインに転用して実施することはできなかった。しかしオンラインでのボランティアでも対面での活動と同等の質を保つことを目標に工夫を行ったところ、むしろオンラインによって垣根を超え今まで繋がれなかった人々にボランティアを提供することができるようになった。
8	日本版ステューワードシップ・コードの受入れ	人事部人事課	概要 本学のSDGs活動の一環として、2021年7月、法政大学年金(企業年金)運用において、「日本版ステューワードシップ・コード」(以下、「コード」と言う。)の受入れを表明した。 国内大学において、コードの受入れ表明の前例はなく、国内大学初の取り組みとなった。 受入れ表明に伴い、運用受託機関のサステナビリティの活動を含めたステューワードシップ活動について、モニタリング(ヒアリング)を実施し、運用受託機関の評価を行う。その結果を教職員及び年金受給者に公表する。このような運用受託機関との「目的を持った対話(エンゲージメント)」を通して、運用受託機関のサステナビリティに関する取り組みを促す。 効果 1. 持続可能な未来への貢献 コードは、SDGsや持続可能な世界の実現のために、企業の長期的成長に重要な環境(E)・社会(S)・ガバナンス(G)の3つの観点に配慮した企業に対して行うESG投資の観点を重視し、投資先企業の選択を行うことを運用機関に求める。 2. 年金基金の運用パフォーマンスの安定性向上 本学がコードの受入れを表明することで、年金基金の運用機関に対し、本学の姿勢を示すとともに、ステューワードシップ活動に対するモニタリングを行うことにより適正な投資行動をより一層促す。 ※補足 「日本版ステューワードシップ・コード」とは、金融庁が公表している、機関投資家(資産運用者、資産保有者)に求める8つの行動原則のこをいい、投資と対話を通じて企業の持続的成長を促し、受益者のリターン増大を図ること(「ステューワードシップ責任」)を目的としている。 本学は、学内年金基金について、資産運用を全て運用機関に委託しているため、「資産運用者」(運用機関)にはあたらないが、「資産保有者」(アセットオーナー)に該当する。
9	迷わず乗れるもん(アーバンデータチャレンジ2020)	デザイン工学部 今井研究室	「迷わず乗れるもん」は、公共交通機関の重要なファクターであるバス路線の活性化に向けて、既存のバスアプリにアドオンするサービスです。このサービスには、バスの混雑度の予測機能やバスに待ち時間なく乗れる出発時間を提案する機能等の新規性があります。この機能により、バス利用者は混雑を避けた分散乗車が可能となり、バス会社はバス利用者の急激な増加への対応が可能となるため、バスの利便性が向上すると考えました。 アーバンデータチャレンジ(UDC)2020は、2013年から地方公共団体をはじめとする各機関が保有する社会基盤情報の公開・流通・利用促進に向けたアイデアコンペティションです。オープンデータを積極的に活用して、地域課題の解決に効果的なアプリケーションや活動等をコンテスト形式で募集しているもので、本サービスは銀賞を受賞しました。
10	リレー講義「高校生と考える＜COVID-19＞」(全15回)	法政大学国際高等学校 × 法政大学	法政大学×国際高校の高大連携によるリレー講義「大学の学問にふれる」が選択科目として設置され、4年目となる。この講座では、高校での学びを発展させ、毎回法政大学の先生方を国際高校にお招きし、大学の学問がどのようなものか、多様化する現代社会の諸課題に学問がどのようにアプローチするかを学んでいる。高校生への「学問への招待」としてはもちろぬ、各学部のガイダンスとしても機能している。 2021年度は統一テーマを「高校生と考える＜COVID-19＞」とし、12学部の協力を得て、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)及び感染症(COVID-19)、それらが引き起こした現象や社会問題、関連する諸分野について、全15回(1回90分)のリレー講義を企画した。各回のテーマは「総合大学」にふさわしく、分子生物学、数理統計学、政治学、社会学、経済学、観光学、歴史学、情報科学、文学、言語学と多岐にわたり、文理の枠を超えて、毎回スリリングな講義やワークショップが展開された。 ＜COVID-19＞をテーマに、高校生を対象とした、これだけ多様な分野の連続講義は他校に類を見ないものであり、全国の高校の中で最も先進的で意欲的な試みであったと言える。「憲章」に掲げる「社会の課題解決につながる実践知」に相応しい時宜を得た教育実践であった。
11	若葉台住宅ワクチン代行予約プロジェクト	現代福祉学部 保井美樹・今井裕久ゼミ	神奈川県相模原市緑区に位置する若葉台住宅において、住民の新型コロナウイルスのワクチンの接種予約代行を学生と地元の住民組織である若葉台住宅を考える会が連携して行った。コロナ禍において、不要不急の外出制限、コミュニティ活動そして大学における教育・研究活動が大きく制限や自粛を余儀なくされる中、コロナ禍においても「地域に寄り添ってコミュニティ活動の支援ができないか」を模索する中で取り組みである。感染拡大を考慮して、若葉台住宅現地に赴く学生は最低限とし、他の学生はzoomを用いたオンラインでの参加とした。 手順としては代行予約を希望する方から接種券を預かり、相模原市が運営する予約ページにおいて、必要情報の入力や予約日時の記入を行った。具体的には現地にいる学生や住民組織が受付等の窓口役となり、オンラインで参加している学生が自らの携帯やパソコンなどを用いて予約を行った。また代行予約の際には、予約希望者と代行予約者双方から個人情報取扱いに関する誓約書を記入してもらい、個人情報の保護に努めた。 ワクチン予約代行活動が終了した後も、我々の行った活動や仕組みがこの地域だけで終わらずに多くの地域に広げる目的から、今回の代行予約を行うまでの手順をマニュアルとしてゼミのブログサイトに公開を行った。